

徳島県感染症発生動向調査事業年報

Annual Report of The Tokushima Infectious Diseases Surveillance

【2020（令和2）年版】

徳島県立保健製薬環境センター

（徳島県感染症情報センター）

はじめに

昨年（2020年3月）、世界規模でのパンデミックとなった新型コロナウイルス感染症は、収束はおろか大きな波を繰り返しながら未だ先が見えない状況にあります。1年遅れで開催された東京オリンピック・パラリンピックは、無観客で行われると言う例を見ない大会となりました。全国の衛生研究所は、昨年に続き休日を問わず新型コロナウイルス検査対応するとともに、変異株の早期探知の強化に向け、変異株PCR検査及びゲノム解析体制の整備に取り組んでいます。

また国内の感染状況としては今年度も高病原性鳥インフルエンザが各地で発生しており、県内でも防疫措置を実施した者がインフルエンザ様症状を発症した場合の感染確認に備え、迅速な検査対応が出来るよう努めているところです。

他にも、公衆衛生上大きな脅威である新型インフルエンザ、エボラ出血熱、MERS（中東呼吸器症候群）、SFTS（重症熱性血小板減少症候群）等の新たな感染症（新興感染症）、デング熱や結核等の再び注目されている感染症（再興感染症）への対応や、薬剤耐性菌対策など国際的に取り組むべき課題も生じています。感染症の原因となる病原体は刻々と変化を繰り返し、ヒト社会もまた大きく変貌しています。

感染症の発生動向は、いかなる国においても安全とは言いきれません。

感染症発生動向調査事業は、様々な感染症対策を的確に行うに当たり、明確なエビデンスとして利用される大変重要なものであります。そのため、実施主体である保健製薬環境センターの役割と責任は、ますます重要であると考えております。感染症対策の一層の強化と充実を図るため、海外からの情報を含め健康危機に関する情報を常に把握し、今後も状況の変化に応じ、迅速かつ的確な調査と情報提供を行えるよう、疫学情報部門と検査部門との連携のもと、事前対応型の業務推進に努力してまいります。

このたび、2020（令和2）年における徳島県の感染症情報を整理し、年報を作成しましたので、感染症対策の資料として御活用いただければ幸いです。

なお、この事業の実施に当たりましては、県内各医師会、定点医療機関をはじめとする関係者の御協力をいただいております。この場を借りて深く感謝いたします。

2021（令和3）年12月
徳島県立保健製薬環境センター
（徳島県感染症情報センター）
所長 三宅 崇仁

目 次

1. 感染症発生动向調査について	1
2. 全数把握対象感染症患者報告状況	
(1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況	5
(2) 各疾病の届出状況	
① 結核	6
② 腸管出血性大腸菌感染症	7
③ A型肝炎	8
④ つつが虫病	9
⑤ 日本紅斑熱	9
⑥ レジオネラ症	9
⑦ アメーバ赤痢	10
⑧ ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）	10
⑨ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	11
⑩ クロイツフェルト・ヤコブ病	11
⑪ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	11
⑫ 後天性免疫不全症候群	11
⑬ 侵襲性インフルエンザ菌感染症	12
⑭ 侵襲性髄膜炎菌感染症	12
⑮ 侵襲性肺炎球菌感染症	12
⑯ 水痘（入院例）	13
⑰ 梅毒	13
⑱ 播種性クリプトコックス症	14
⑲ 破傷風	14
⑳ バンコマイシン耐性腸球菌感染症	15
㉑ 百日咳	15
㉒ 新型コロナウイルス感染症	15

3. 定点把握対象感染症患者報告状況（週報）

(1) 過去5年間の報告状況	17
(2) 各疾病の報告状況	
① インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）	18
② RS ウイルス感染症	19
③ 咽頭結膜熱	20
④ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	21
⑤ 感染性胃腸炎	22
⑥ 水痘	23
⑦ 手足口病	24
⑧ 伝染性紅斑	25
⑨ 突発性発しん	26
⑩ ヘルパンギーナ	27
⑪ 流行性耳下腺炎	28
⑫ 急性出血性結膜炎	29
⑬ 流行性角結膜炎	29
⑭ 細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く）	30
⑮ 無菌性髄膜炎	30
⑯ マイコプラズマ肺炎	31
⑰ クラミジア肺炎（オウム病を除く）	31
⑱ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）	32

4. 定点把握対象感染症患者報告状況（月報）

(1) 過去5年間の報告状況	33
(2) 性感染症患者報告状況	
① 性器クラミジア感染症	33
② 性器ヘルペスウイルス感染症	34
③ 尖圭コンジローマ	35
④ 淋菌感染症	35
(3) 薬剤耐性菌感染症患者報告状況	
① メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	36
② ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	36

③ 薬剤耐性緑膿菌感染症・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

5. 病原体検査検出結果

(1) ウイルス検査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
(2) 細菌検査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

6. 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45

(1) 全数把握対象疾患の患者数
付表1：2020（令和2）年全数把握対象疾患の月別患者数・・・・・・・・・・46
付表2：2020（令和2）年全数把握対象疾患の保健所別患者数・・・・・・・・47
(2) 定点把握対象疾患（週報）の患者数
付表3：2020（令和2）年定点把握対象疾患（週）の週別患者報告数・・・・48
付表4：2020（令和2）年定点把握対象疾患（週）の週別定点あたり患者報告数・・・50
付表5：2020（令和2）年定点把握対象疾患（週）の保健所別患者報告数・・・・52
付表6：2020（令和2）年定点把握対象疾患（週）の保健所別定点あたり患者報告数・・・54
付表7：2020（令和2）年定点把握対象疾患（週）の年齢階級別報告数・・・・56
(3) 定点把握対象疾患（月報）の患者数
付表8：2020（令和2）年定点把握対象疾患（月）の月別患者報告数・・・・57
付表9：2020（令和2）年定点把握対象疾患（月）の年齢階級・性別報告数・・・・58

(参考資料) 徳島県感染症発生動向調査事業要綱